

# 与論島をどう活性化すればよいか？

3811500282 水産学部水産学科 神野 郁弥

与論島を活性化するためにはどうすればよいかという事を考えてみるとまずあげられるのが、観光マップの種類別に作ってみるなどをしてみるという点を上げて見る。理由として与論島の特徴として、サンゴ礁に囲まれている小さな島という事なので海に囲まれている。百合が浜は有名だが、他にもきれいな場所は多く見られた。そこで、海専用のマップを作る・観光客用にその海にどのような熱帯魚が存在するかを示した簡単な標識を立てるなどをしてみるとそれを目的とした写真家やダイバーなどが増えるのではないかと考える。

次に注目してみようと思うのがユルキャラだ。ユルキャラというのは、熊本のくまもん、千葉県船橋市のふなっしーなどがみられる。なぜユルキャラを選んだと言われると日本の中でユルキャラブームが発生している。その流れに乗るべきではないかと思う。事実、熊本はくまもんのキャラクター効果により知名度を日本全国的なものとしている。沖縄には昔ゴーヤマンという人形がはやったのを私は覚えている。知名度を上げるには使えるものは使っていくべきだと思う。鹿児島に住んでいても与論島という地名は知っていても話題には上がってきにくい。話題に上げるためにも有名なものを一つ作り上げると言うことは非常に重要だと考えられる。

次に注目してみようと思うのが食材である。私が与論に行ったときは、台風の影響で魚介類を食べる機会は非常に少なかった。魚介類も非常に食したかったが、ここでは、もずくに注目する。居酒屋『ひょうきん』で食べたもずくそばがとてもおいしかった。もずくには、フコダインを多く含み、健康に富んだものが多く含まれている。もずくそばを与論の名物としてもっと大々的に宣伝それに加えて、島の黒糖焼酎有泉を広めることが出来れば、さらに発展することが出来るのではないかと考える。また、有泉を広めるにあたってそれにあうつまみを発案できるとそれとセットにして売るとそのつまみとなる商品も販売することができて一石二鳥という考えも出来るのでこれを広めていけばいいのではないかと思う。

次に環境問題について取り扱ってみる。まずサンゴの白色化現象について取り扱ってみる。白色化は、地球温暖化により海水温が上昇することにより、サンゴ本体に住んでいるカッチュウソウという生物がサンゴの体外にでることによりサンゴに十分な栄養が行き届かなくなり、死亡して白化してしまう。白化の対処として十分な対処は、今はないが、サンゴの植え付けなどを海水温が低い場所にするなどを考える。そうすることによりサンゴの景観の回復及びに、サンゴ礁が形成されることにより小さな熱帯魚類が生息する住みか

を与えることが出来、そうすることにより生態系を形成することができるのではないかと考える。ただし、これは安易な考えであるので調査をしなければならないし、サンゴ礁を形成するのは、長いスパンがかかるので難しいと考えるそこで考えるのが今ある自然の保護である。自然の保護というのは具体的に示すと、まず稚魚の放流があげられる。サイズごとに獲らないなどの決めごとや禁漁期間を設けるなどをしていたが今行われている育てる漁業というのが大切ではないかと思う。

これから環境は変化していくものなので、環境を見つつその地域に合った漁業をしていくのが大切であると思われる。

